

海外事例の検討

研究分担者 市村 康典 国立国際医療研究センター国際医療協力局
研究代表者 齋藤 智也 国立保健医療科学院健康危機管理研究部

研究要旨

2020 東京大会の開催に向けては、過去の大会を事例にその準備に学び、現在の国内準備状況と対比しつつ、国内の対応に関する過不足を明らかにし、そのギャップを埋めていくことが必要である。本研究では、過去のオリパラほか各種大規模な国際スポーツイベントに関する包括的な調査を実施し、主に先進国における取り組み状況に関する洗い出しを行い、300 超の文献の簡易データベースと、過去の主なオリンピック・パラリンピック大会に関する知見を整理した。各国の知見は、特に組織構造等、日本の既存の体制との背景の違いに考慮しつつ活用する必要がある。また、手順等を文書化して残していくことが、健康危機管理分野のレガシーとして重要である。

A. 研究目的

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「2020 東京大会」）開催時は、国内外から多数の来訪者が東京に集中すること想定される。国際的に大規模な集団が形成されることで、健康危機事象が発生することが想定されているため、その実施前の計画と実施後の検証が、わが国及び国際社会で重要となる。2020 東京大会の開催に向けては、過去の大会を事例にその準備に学び、現在の国内準備状況と対比しつつ、国内の対応に関する過不足を明らかにし、そのギャップを埋めていくことが必要である。本研究では、過去のオリパラほか各種大規模な国際スポーツイベントに関する包括的な調査を実施し、主に先進国における取り組み状況に関する洗い出しを行う。また、とくに 2012 年のロンドンオリンピック・パラリンピックを事例として、比較考察を行い、マスキングにおける健康危機管理として準備すべき

内容を検討し、改善すべき点の抽出と提案を行う。

B. 研究方法

(1) 過去の大規模イベント時のレビュー報告書等に関する調査

過去のオリンピック大会等の国際的な大規模イベント終了後のレビュー報告書や公衆衛生対策に係る論文や資料等を収集、分類、整理を行った。

収集した文献は分類とリスト化し、今後のマスキング研究の参考となるようデータベース化を行った。調査対象を表 1 に示す。文献調査は、アトランタ大会からロンドン大会までの夏季オリンピック、長野オリンピックから平昌オリンピックまでの冬季オリンピック、日韓大会からロシア大会までのサッカーW 杯、オーストラリア大会から英国大会までのラグビーW 杯を対象とし、公開データベース上で、“Health” “medical” “Terrorism” “food”を検索ワードとした。調査結果の分類方法を

表2に示す。また、国内イベントについては、さらに愛知万博、洞爺湖サミット、東京オリンピック、APEC 横浜、伊勢志摩サミットを対象として検索した。データベースはPubMed (<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/>) とCiNii (<https://ci.nii.ac.jp/>) を使用した。

(2) ロンドンオリンピック・パラリンピック大会を事例とした比較考察

ロンドンオリンピック・パラリンピック開催時に英国公衆衛生庁で作成した資料を収集・分析し、国内の対応に関する既存手順・プロトコルと比較し、国内での準備が十分でないと考えられるギャップについて検討した。

C. 研究結果

(1) 過去の大規模イベント時のレビュー報告書等に関する調査

分析対象となった論文は、PubMed検索で164報(表3)、CiNiiで144報が得られた。収集論文リストを表4-1、表4-2に示した。

また、特に詳細な文献が得られたアテネニューヨーク、北京、ロンドン、バンクーバーオリンピックに関して、以下の分類項目に関する情報を添付資料にまとめた。

<分類項目>

(1) 基本情報(実施期間、参加国・選手数、観客動員数、会場の場所・アクセス、ホストシティの人口規模、気候・気象条件)

(2) 実施体制

(3) 事前の公衆衛生対応

① リスク評価

② サーベイランス体制

③ 環境対策(熱中症、公害等)

④ 食品衛生(ケータリング、手洗い場所)

⑤ 公衆衛生(手洗い場所、トイレ対応)

(4) テロ対策

(5) 医療体制(医療スタッフの数と種類)

(観客に対する医療、選手・関係者に対する医療、会場での医療対応)

(6) 大会期間中の運用・課題(発生したインシデントと対応状況、その他課題)

(2) ロンドンオリンピック・パラリンピック大会を事例とした比較考察

以下の12文書が入手できた。概要と考察を以下に記載する。

(未公開文書を含むため公開版では削除)

総評

ロンドン大会については、内部の手順書を含め詳細な資料が得られた。このような手順等の明文化は、国内では業務としての優先順位が比較的低く考えられがちであるが、その後と同様なイベントを開催する国等にとっては、貴重な参考文献でありレガシーである。また、国内でも、その後大規模なイベントを実施する際に重要な組織の記憶として伝えられるものになるだろう。

日本の国内状況と比較して、当時のHPAの特殊な立ち位置に注意する必要がある。HPAは公衆衛生専門機関としてLOCOGとの間の一元的な窓口として機能していた。保健所機能がHPA傘下にあることでこれが可能であったと考えられる。日本でいうと感染研に近い立ち位置ではあるが、組織的位置づけの違いを考慮しつつ、国内で必要な文書等を検討していく必要がある。

D. 考察

これまでの大規模イベント開催に関して、健康危機に関連する文献は比較的少なかった。これは、国家的なイベントでは万全な体制が取られるために、大会中に発生する健康危機事象が稀であることも影響しているだろう。また、準備過程に関する内容の秘匿性が高く、公開文書とされていないことも影響していると思われる。

今後、得られた文献の分析をさらに進め、新型コロナウイルス感染症の発生のために開催が1年延期となった東京2020大会に向けた知見を探るとともに、後世への教訓として残すべき文書のあり方についても検討を進めていく。

E. 結論

本研究では、過去のオリパラほか各種大規模な国際スポーツイベントに関する包括的な調査を実施

し、主に先進国における取り組み状況に関する洗い出しを行い、300超の文献の簡易データベースと、過去の主なオリンピック・パラリンピック大会に関する知見を整理した。各国の知見は、特に組織構造等、日本の既存の体制との背景の違いに考慮しつつ活用する必要がある。また、手順等を文書化して残していくことが、健康危機管理分野のレガシーとして重要である。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

表 1 調査対象としたイベント

区分	対象イベント
オリンピック・パラリンピック (夏季大会)	アトランタ大会、シドニー大会、アテネ大会 北京大会、ロンドン大会、リオデジャネイロ大会
オリンピック・パラリンピック (冬季大会)	長野大会、ソルトレークシティ大会、トリノ大会 バンクーバー大会、ソチ大会、平昌大会
ワールドカップサッカー	日韓大会、ドイツ大会、南アフリカ大会 ブラジル大会、ロシア大会
ワールドカップラグビー	オーストラリア大会、フランス大会、 ニュージーランド大会、イギリス大会、日本大会
サミット	G7サミット、G8サミット、G20サミット
その他	APEC (国内実施分のみ)、大喪の礼、即位の礼

表 エラー! 指定したスタイルは使われていません。 調査結果の分類方法

区分	サブ区分
01_オフィシャルレポート	
02_公衆衛生対応	02_01_予防活動・体制作り・リスク評価 02_02_サーベイランス 02_03_環境対策 02_04_食品衛生 02_05_テロ対策 02_06_その他
03_医療体制の整備	03_01_観客 03_02_選手を含むオリンピック関係者
04_アスリート対応	

表 2 PubMed 検索結果：件数

KW	Health	medical	terrorism	food
夏季オリンピック				
Atlanta Olympic	38	27	2	3
Sydney Olympic	122	45	2	10
Athens Olympic	48	25	3	10
Beijing Olympic	66	31		9
London Olympic	183	110	2	21
冬季オリンピック				
Nagano Olympic	0	2	0	0
salt lake Olympic	0	0	0	0
Torino Olympic	7	6	0	0
Vancouver Olympic	13	11	0	2
Sochi Olympic	14	9	1	1
Pyeongchang Olympic	6	6	0	0
ワールドカップ (サッカー)				
Korea Japan World Cup	3	2	0	0
German World Cup	9	10	3	1
South Africa World Cup	24	18	6	0
Brazil World Cup	39	16	3	7
Russia World Cup	4	2	0	0
ワールドカップ (ラグビー)				
Australia Rugby World Cup	2	2	0	0
France Rugby World Cup	1	2	1	0
New Zealand Rugby World Cup	3	2	0	0
UK Rugby World Cup	5	4	1	0

(2019年7月末現在)

